

平成 26 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	滋賀県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
滋賀県	高等学校	全日制	<small>しがけんりつこなんのうぎょうこうとうがっこう</small> 滋賀県立湖南農業高等学校

2 研究課題

高等学校における、特別支援学校や関係機関と連携した、特別な教育的ニーズを有する生徒のキャリア教育・就労支援の充実

3 研究の概要

本校は、特別な教育的ニーズを有する生徒が全校生徒の約 16%を占める中、教育課程を工夫し、関係機関との連携により多くの生徒の就労支援を行ってきた。ただ、生徒一人ひとりがもつ教育的課題が多様化し、すべての生徒に十分な就労支援ができないのが現状である。

そこで、現状分析のもと、就職支援コーディネーターの配置を行い、労働・福祉等の関係機関と連携しながら、特別な教育的ニーズを有する生徒の就労先・就業体験先の開拓、就業体験時の巡回指導、卒業後のアフターフォロー等を行う。

また、キャリア教育のさらなる充実のため、教育課程を工夫し、保護者への理解啓発を進めることなどにより、一人でも多くの生徒の就労支援を行い、自立した社会参加ができるように取り組む。

4 研究の成果

- 生徒の現状分析

本校における、特別な教育的ニーズを必要とする生徒について、普段の学校や家庭生活での状況や中学校、関係機関からの情報を踏まえ分析した。結果、就労等支援の対象としてピックアップし66名の個別の指導計画を作成した。

- 就職支援コーディネーターを6月より配置し、個別の案件の就労支援に取り組むとともに、学校近隣の184社を訪問し、企業における求人状況、福祉就労、体験就労に情報収集を行いデータベースを作成した。
- 就労支援ネットワーク会議を設立。外部委員を行政、福祉機関、職業専門校、特別支援学校教育関係者、保護者から委嘱し、合計4回の会議を実施した。
- 個別の案件に関して、行政、福祉関係、職業訓練校などの関係機関が連携しケース会議を行い、具体的な就労支援を行った。
- 特別支援学校の教員により、WISC-III検査を実施した。
- 日々の教育活動の中で、全教員が授業改善に取り組み、課題のもと実践をおこない、98%の教員が良くなったと評価している。
- 生徒の就労意識の向上や自尊感情の高揚のため、保護者の啓発も含め、映画鑑賞に取り組んだ。生徒からは、鑑賞後アンケートにおいて、98%の肯定的評価があった。

5 課題と今後の方策

- 本年度の特別な教育的ニーズを有する生徒が全校生徒の約14%であった。本県の中学校での特別支援学級の在籍率の約2%と比較し、かなり多い。本校でのこの傾向は、今後も続くものと考えられ、本校でのキャリア教育・就労支援等の充実が喫緊の課題であると考えている。
- 本事業の指定をうけ、校内体制、関係機関との連携、コーディネーターの配置など、生徒の就労に対する支援体制が整った。また、教員の課題に対する問題意識も高まり、多くの実践ができた。
- 今後の社会の有り様として、インクルーシブ社会の実現が、高等学校ではまだまだ認知されていない。障害者の権利に関する条約の批准について、学校現場でさらなる理解が必要である。